

2023年9月1日(金) 晴

9月に入ったけど、厳しい暑さが続く。長く続いているのがカラダに堪える。聞くところ、地方のどこかにクーラーなんて無いという集落があるらしい。それが続く地球環境でありますように。

－ 信頼性を判断する能力 －

手紙からメール、メールからチャットへと伝達手段に使うツールも変わってきた。最近では手書きの便りを出すのにも躊躇する。人によっては、返信がストレスにらしい。

年齢で人を語れなくなって久しい。ケータイをしながら自転車に乗っているシニア男性を初めてみた時、“こうなってきたんだなあ…”を感じた。今や電車内の「下向き」姿勢は、老若男女を問わない。

右脳・左脳の違いや、脳の男女差などは以前ほど言われなくなった。何にもまして個人差が大きいし、多様性の視点もあつてのことだと思う。実際、それなりに仕事して生きてきて、人間は想像を絶するほど異質!と実感している。

知人の一人も同じような実感をもつと言う。そして、最近もそれを再認識する局面があつたそう。居合わせた三人に同じことを話して、対応していても、受けとめ方が違った。

一人は好感し、別な一人は感嘆し、そしてもう一人は誤解した。その誤解はどこから来るのか。他の二人も驚くほどだったから、知人いわく自分に非があるとは思えない。

『信頼の構造』(山岸俊男)の中でたしか、社会的知性の一つに、「相手の信頼性を判断する能力」をあげていた。しかしその能力は当然、『一日にして成らず』。

自分の心身を守るために、「相手の信頼性を判断する能力」は必須だと思う。何度か手痛い「社会勉強」や、リスクをとる覚悟もして、徐々に養われていく。

善し悪しをある程度見分けてこそ、良好な人間関係ががうまれ、信頼関係へと育まれる。けっきょくのところ、問われるのは自分ということか。

2023年9月6日(水) 曇

今日の予想最高気温は29℃。30℃を下回る気温をみるのは本当に久しぶり。でも台風も近づいていて、蒸し暑い。四国や北陸いは大雨の予報。

－ めぐり合わせ －

今朝のessaisでもふれた「京アニ事件」の初公判。事件当初、犯人の治療のニュースが流れたとき、ある芸人が「そこまでして生かさんとアカンかと思った」と言ったそう。こう言うのはダメとわかっていることわりながら発言したらしいが、同じように感じた人はたぶん少なくない。

治療にあたった医師を追ったドキュメンタリー番組が「関テレ」で先週深夜にあった。録画して日曜にみた。火傷治療のスペシャリストは事件の一報を知った時、京都の病院などに電話をかけまくったらしい。

一人でも多く助けたかったのに、被害者は一人も搬送されなかった。しばらくして、むこうから連絡が来たのが犯人の搬送打診だった。精鋭のチームを編成して治療にあたり、昨日の公判に出られるようになった。

チームの医師の一人は番組のインタビューには応えていたが、顔出しはしなかった。ジレンマを抱えた胸の内を語った。

せめて悔いる。自分の犯したことの非道さを思い知る。ジレンマを抱えつつ見事に回復させた医師が語った投げ所。注目の初公判で起訴内容を認めたのは、わずかな救い。先生も少しはほっとされているか。

昨日の裁判で生い立ちも明らかにされた。パーソナリティは遺伝的要因と環境要因が半々という。親がダメでも他のまわりの大人が時には耳の痛いことも言って気にかけていたら…。

しかし、直近で個人的にも経験した例からして、それも希少な場面になっているのかもしれない、いつの頃からか。

真剣に助言しているのに、それを見てとれず、ただキツく言われたとだけしか受けとめられないとなると、口を閉ざすことになる。

ああ、めぐり合わせ。人の生涯のなにもかも、生まれてこの方のめぐり合わせ。そんな気がしてくる。

2023年9月11日(月) 曇一時雨

いま気づいた、今日は9.11。あの日は仕事で東京にいた。お昼前に着き新幹線の東京駅を降りたときの妙に生暖かい空気が今もよみがえる。日本時間では夜におこった惨事と結びついて印象づけられてしまった。

－ 自分の軸 －

9日から今年度の「プロ講師になろう塾」が始まり、いつものように初日に自己紹介のミニプレゼンをしてもらった。今年もバラエティーに富んだ人たちが集った。

ミニプレゼンの中で「自分の軸」という言葉をつかった人がいた。「自分の軸」といえば、今から5年前、2018年2月に「女性チャレンジ応援拠点」のイベントとしてあった『チャレンジ交流会』のテーマ(自分軸を見つける)でもあった。

このときスピーカーの一人として30分ほど話すことになっていたので、「自分の軸」とは何か、考えた。自分の中心になるもの、という意味はわかるとして、自分の中心になるものとは、何を指すか。

しばらくこのテーマが頭の片隅にいつもあった。仕事の合間に、日常の習慣的な作業をしている時などに思い出して、考える。そんなことを何度か繰り返すうちに、ある瞬間にはっと答えが浮かぶ。

“自分の守りたいものの究極…”。生涯をとおしてずっと守り通したいもの、それが自分の軸にあたるのではないか。そのためになら、少々の混沌、不安定もいとわない。

自分の守りたいものの究極、それは自身の精神性。2015年の終わりにそう覚った時の感覚は、ある意味「開眼」という言葉がふさわしい。過去から現在にいたる人生の選択のすべての判断基準がそこにあった。

“そうだ、わたしの一番守りたいのは自分の精神性なんだ…”。そう気づき、自分に合点がいった感覚。たぶんこれはなかなか得難いもの。

先日、これから世に出ようと相談にきた人との対話の合間にこの話をする事があった。すると、「私もそんな感覚に出合いたいです!」。

紆余曲折、孤軍奮闘、試行錯誤が待っているでしょうが、自分の想うところを究めていけば、必ず出合うはず、あなたもわたしも。

2023年9月15日(金) 曇

昨夜はほぼ熱帯夜、今朝も暑く、顔にじわっと汗。来週前半まで日中は33℃前後の予報。埼玉は昨日35℃だったとか。これから夏が長くなるとすると、体調の維持管理は大事なタスクになってきそう。今日は旧暦8月1日、中秋に入る。

— どの段階にいるのか —

地下鉄構内に貼られた啓発ポスターに、SNSを〈武器〉にしてはいけないといったものがある。ChatGPTのCEOはAI規制の国際機関を早くつくる必要があると対談で述べたらしい。発売したばかりの「テスラ」トップの自伝には衛星通信で戦争の重大局面の鍵を一人の民間起業家が握る現実が書かれているとか。

インターネットが社会に広がり始めた時、これからは核戦争ならぬ情報戦争の脅威が世界を覆うと言われた。ひょっとすると、本当はもっと〈脅威〉を感じないといけないほどの状況になっているのではないかな。別々のニュースや見聞きすることから、そんな風に最近感じる。

自身の生涯を紹介する本に『人間のフリをした悪魔』とサブタイトルをつけられた20世紀の科学の超人「ノイマン」。1945年以降の半世紀ほどは「科学者の倫理」を議論する本や動きがあった。1995年以降では、〈成果〉がどの組織や分野でも問われ、「倫理」が表向きの顔だけになった感。

こわいのは人間の全能感、万能感。自社の技術によって戦争の局面を変えられるわかった人間のその先の思考と行動。味方につけようとする国、企業、その他もろもろの組織や人間が複雑にからまり、大昔からかわらない社会構図がうまれる。

今どの状況、段階にわたしたちがいるのか。コロナ以降ときどきそんな問いを自分にしている。最近その問いの重みがましてきた。

2023年9月15日（金）午後 中之島中央公会堂

知人からの案内で「御文庫講」300周年記念講演会へ。大阪の出版社が集い、納本した図書館が住吉大社にあるそうで、300年になるとか。宮司さんのお話もおもしろく、これは一度行ってみようという気に。



2023年9月20日（水）曇

朝ちよっと降った。今日は時々雨のよう。気温はあい変わらず33℃前後。長期予報によると、この冬は暖冬になるとか。ああ、という感じ。

— 静寂 —

昨夜ニュースをチェックしていて、最近出版されたいらしい『静寂の技法』という本を知った。サブタイトルに『最良の人生を導く「静けさ」の力』とあって、コピーに、『「余白」にこそ価値がある』。

今朝あらためて本の詳細を検索してみる。サンプルも読めるので、目次を追った。全体として、おおむね自分でも理解できていることだなあと感じる。「間」や「観想」、「答えは静寂の中にある」などなど。

昨日の午後、以前の読書(『無の探究(中国禅)』)ノートを見返した。瞑想歴25年という自業家の相談に応えるのに、ふと思い出して、取り出した。表紙の日付は2008年2月。もう15年前になる、びっくり。

久しぶりに開いてみると、その後知ったこと、学んだことの(前振り)があるのに気づく。例えば、「王弼」という人物。『老子』の本の中で初めて知ったと思っていたら、ずいぶん前にメモしていた。

先の『静寂の技法』の第8章はブッダの教えにも触れているらしい。15年前のノートにブッダにふれた箇所を筆写している。「心の平安」について書かれた部分。

“心の平安”とは、漢訳者が「定(じょう)」と呼び、「三昧(ざんまい)」と音写する、精神統一の最高の状態である。それは同時に「わたくしはこのように平安である」とも意識せぬことであって、よく気をつけて自己の放逸を制し、ひたすらと心を落ちつけて生きることであった。

「放逸であるな」とは、ブッダの晩年の教えを書いた『遊行経』の中心テーマでもあった。ブッダにとって、瞑想と精神統一こそは、正しい理法を見、明知をうる、もっとも確かな方法であった。

理法=道理にかなった法則。道理=物事の正しいすじみち、また人として行すべき正しい道。明知=はっきりと知ること。

毎日いつの静寂を生活におりこみながら生きてきて、自分なりの(答え)は得てきた。「定」のいかばかりかは身にそなわったように思ってしまうが、それを超えたところに真髄ありか。

2023年9月26日(火) 曇

秋分からようやく秋の感じ。でも昨夜から今朝にかけて少し蒸し暑い。予報士の人がいわく、「いま未だ8月末の気温ですから」。たしかにそんな感じ。でも29日は中秋十五夜。

— 「清」 —

企画のヒントや、着想のきっかけに漢字の語源をあたる。他にも気になった言葉なども調べてみる。ネット検索が簡単だけど、辞書『常用字解』(白川静)を愛用している。

先日「清静」という言葉の「清」について、王弼という古代の思想家が「求めざるを清と曰う」と説明していることを知った。『常用字解』には「清水をいう」と書いてあり、「清静は道家の最も重んじるところ」と紹介している。

自分の名に「清」があるけど、名付けの父が王弼の説く意味を知っていたとは考えられない。いや、10センチほどの分厚い辞書をずっと大事にしていたから、ひょっとすると載っていたかもしれない。この辞書をもとに、弟妹たちの名前も付けられた。

ところで、いま気づいた、自分が父と同じようなことをしていることを。子どもの頃の記憶がそうさせるのか…？

「求めざるを清と曰う」、今もはっきりと記憶しているある印象的な場面が蘇る。12才の秋、事故で入院していた時、後で同じ病室に入ってきた男の子のお母さんがある日突然、こちらのベットにきて、顔をぱっと見て、「清実ちゃんは口にだして願わない方が願いが叶う!」。

それだけ言って、さっと病室を出ていった。“…?”、何がなんだかわからない。子どもの目にもちょっと変わった感じの女性だったが、言われたことはその後も時々思い出す。ただそう言われたことだけとして。でも今回別な意味が加わった、つながった。

『過去は少しも決定されていない』(三浦雅士)とは、よく言ったもの。何十年も経って、過去のある事の意味合いがブラッシュアップされる。こういうことがあるから、人生おもしろい。長く生きていれば、そういうことがある節目でおこる。長生きする意味があるというもの。

2023年9月29日(金)

十五夜、月の出から1時間半ほど起った頃の満月



午後9時頃の満月



2時間後には月の入り、西の空の満月

